



感染症対策・調査センター だより

2024(令和6)年2月1日 No.7

名古屋市保健所
感染症対策・調査センター

〒463-8585
名古屋市守山区桜坂四丁目207番地
電話 737-3712 FAX 736-1102
Mail a7373711-07@kenkofukushi.city.nagoya.lg.jp



増えている感染症～梅毒・エムポックス～

梅毒は、性的な接触などによってうつる感染症です。病名は症状としてみられることがある赤い発疹が楊梅（ヤマモモ）に似ていることに由来します。

エムポックスは、中央アフリカから西アフリカにかけて流行しています。2022年5月以降、エムポックス流行国への海外渡航歴のないエムポックス患者が世界各地で報告されました。以前は「サル痘」と呼ばれていましたが、2023年5月から「エムポックス」と名称変更されました。

感染者が増えている「梅毒」と「エムポックス」についてお話しします。

差別・偏見を持たず正しく知ろう

	梅毒	エムポックス
病原体	梅毒トレポネーマ	エムポックスウイルス
感染経路	主に性交渉。口や性器などの粘膜から感染する。	2022年5月以降の国際的な流行では、性的接触を含め、感染した人の皮膚の病変などへの接触による感染が中心とされている。
国内発生状況	年間11,000人が報告されていた1967年以降減少していたが、2011年頃から増加、2022年には10,000例を超えた。男性20～50代、女性20代が突出して増えている。	2022年7月に1例目の患者が報告され、以降232例が確認されている。 (2023.12.24更新時点)
症状	性器や口の中などに小さなしこりができたり、痛み・痒みのない発疹が体中に広がることもある。 治療をせずにいると心臓や血管、脳など複数の臓器に病変が生じる。 	発疹、発熱、倦怠感、リンパ節の腫れ、頭痛などがおこる。 
治療方法	抗菌薬の内服治療 	症状に応じた治療（対症療法） 欧州においては特異的治療薬が承認されており、日本でも同薬を用いた特定臨床研究が実施されている。
予防方法	性交渉はコンドームを適切に使用する。ただし100%予防できると過信しない。パートナーが感染していたら自身も検査を受ける。	感染した人や動物の皮膚の病変・体液・血液、感染した人が使用した寝具等に触らない。近距離での対面で飛沫に長時間さらされない。

南方系生物の分布拡大

感染症対策・調査センターでは1年を通してフィールド調査を行っています。夏の暑さはもちろん冬でも暖かさを感じ、温暖化を実感します。温暖化だけが南方系生物の分布拡大の要因とは言い切れませんが、遭遇する機会は増えた印象があります。今回はフィールド調査で遭遇した南方系生物を紹介します。

ヨツモンカメノコハムシ



ヨツモンカメノコハムシは元々沖縄以南に分布していました。体長は1 cmにも満たないですが、国内では最大サイズのカメノコハムシです。ヒルガオ科の葉を食害します。

特徴は体の周囲に薄く張り出した半透明な部分です。これは捕食者に対する防御の役目があり、触角や脚などの噛みつかれやすい部位を覆い隠すことができると考えられています。フィールド調査で発見した時、この張り出しが葉っぱと密着しており、他のハムシより捕まえるのが難しかったのを覚えています。

タカサゴキララマダニ



タカサゴキララマダニは名前の通り南方系のマダニです。温暖な地方に多く、国内では関東～北陸地方以南で南西諸島にまで及びます。体長は1 cmにも満たないですが、マダニの中では大型です。

マダニはすべて吸血寄生性で、イノシシなどの野生動物を吸血源としています。人間への刺症例もあります。体内にウイルスや細菌を保有していることがあるので、刺されないことが重要です。本市の調査では平成29年にはじめて捕獲されました。

『感染症対策・調査センターだより』はインターネットでもご覧いただけます。名古屋市公式ウェブサイト<http://www.city.nagoya.jp/> から感染症対策・調査センターで検索してください。